日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS） 理事会通信（2026 年 11 月 10 日号）

会員のみなさま
JSPEHSS 副会長の山口　香です。

本年も残すところあと 2 か月となり、少しずつ一年を振り返る時期となってまいりました。今年も各地で自然災害が発生し、改めて人と人とのつながりや、互いに支え合うことの大切さを感じる一年でもありました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一方で、さまざまな活動を通じて多くの方々のご尽力やご協力をいただき、実りある一年となりましたことに、改めて感謝申し上げます。

さて、最近では、サイバー攻撃によって企業や組織の活動が大きな影響を受ける事例が相次いでいます。その背景には、生成 AI の急速な発展によって、攻撃の手法が一層巧妙化しているという問題もあります。一方で、AI はこうした攻撃を防ぐための有力な手段にもなっています。AI は私たちの社会に大きな恩恵をもたらす一方、その使い方によっては新たな脅威にもなり得ます。だからこそ、技術の進歩に期待するだけでなく、それを使う人間の倫理観や判断力が、これまで以上に問われていると言えます。

生成 AI の進歩は、私たちの研究活動にも大きな変化をもたらしています。先行研究の整理やデータ解析、論文執筆などにおいて、AI はすでに極めて有用な道具となっています。一方で、存在しない文献や研究結果の生成、不適切なデータの加工、他者の知的成果の無断利用など、研究倫理上の新たな課題も生じています。AI の利用そのものが問題なのではなく、研究者が AI の特性と限界を理解し、その成果を批判的に検証するとともに、自らの研究に責任を持つことが重要ではないでしょうか。技術がどれほど進歩しても、研究の信頼性を支えるのは、最終的には研究者一人ひとりの誠実さと倫理観であるということを、改めて認識する必要があると感じています。

10 月 24 日に開催された 2025・2026 年度第 11 回理事会から主なお知らせです。
第 11 回理事会の議事次第は以下の URL からご覧いただくことができます。

https://taiiku-gakkai.or.jp/wp-content/uploads/2026/10/jspe20261024.pdf

１）第 76 回大会（北翔大学）、第 77 回大会（東京学芸大学）について
第 76 回大会（北翔大学）の参加者人数や収支に関する報告がありました。また、第 77 回大会（東京学芸大学、2027 年 10 月 5〜7 日）の大会テーマならびにシンポジウム案が提案され、議論が行われました。

２）研究倫理審査の手順について
研究倫理綱領、運用規程、チェックシート、申請書等を整理し、審査手順の明確化を図るための審査フローチャート（案）が示され、承認されました。研究対象者の権利保護、イン

フォームド・コンセント、個人情報管理、利益相反への適切な対応を重視すること、生成 AI の研究利用については、著作権侵害、剽窃・盗用、個人情報・機密情報の漏洩等のリスクに引き続き注意を促していきます。

３）政策検討・諮問委員会研究集会等企画について

政策検討・諮問委員会は、e スポーツ政策をテーマに 3 回の研究集会・フォーラム（隔年開催）を企画しています。e スポーツの概念、有用性、課題、政策上の位置づけについて議論し、学術的知見を政策に還元することを目指す。また、体育・スポーツ政策フォーラムのを提案している。

４）新教職課程に関わる特別委員会の新設について

教職課程における「体育」科目が維持されない方針を受け、「新教職課程構想特別委員会」が設置されました。関係学術団体と連携し、具体的な教育内容の構想と関係省庁への働きかけを進めていきます。